

都道府県別賞一等

未来のために

和歌山県 有田市立箕島中学校 三学年

楠瀬 心美

生命保険なんて、今の私には全く必要性を感じませんが、父や母、祖父や祖母に尋ねると、「生命保険は、大人になったら必ず必要になるよ。」と、口を揃えて言います。何故必要なかと聞くと、祖父が話してくれました。

高齢になると祖父は沢山病気をしてきました。例えば夜中に救急車で搬送され急性心不全、呼吸不全で入院になり、一時、集中治療室での管理が必要になりました。その後も一般病棟での入院はしばらく続き、退院後も通院が必要になったことで、入院費と合わせるととても高額な治療費になりました。高額療養費制度を受けることができたのですが、既に仕事に就いていなかったため、収入はなく、医療費が大きな負担になりました。しかし、生命保険に入っていたことで、入院費以外にも通院費も出してもらえ、祖父は安心して治療を受けることができ、今では元気に過ごすことができます。

また、父と母は十年ほど前に若い時に入っていた生命保険を見直し、ファイナンシャルプランナーの方に相談をし、人生設計を立て、必要な予算で、必要なだけの備えをしようと新しい生命保険に入りました。父は私達家族のために働いてくれています。もしも突然、父がガンや、高次機能障害になったり、最悪の場合死亡すると、私達は今までのような生活をする事ができなくなったり、学校に通うことができなくなるでしょう。そのため父は、このような場合になった時に家族が困ることがないだけの保険を掛けてくれています。

祖父は若い時は病気をすることもなく元気で働いていたため、給付金を受け取ることはなかったのですが、高齢になり給付金を受け取っています。父や母も今は必要ではないと分かっていますが、祖父や周りの人の経験から、もしもの時の備えを行っているそうです。私は、祖父の経験や、父と母の考えから生命保険の大切さを知ることができました。人それぞれ、生き方は違います。父や母のように、結婚をし、家庭をもったことで、人生設計を見直し将来に備えておくべきことは何かを考えるなんて、とても素晴らしいことだと思いました。また、父は自分に何かあった時、私達が困らないように考えていることに愛情を感じ、嬉しく思いました。

人間は誰しも、病気やケガをすることがあります。生命保険に加入しておくことで、安心して医療を受けることができます。自分自身や愛する家族のために将来に備えておく、こんな生き方ができる大人に私はなっていこうと思いま